

教員免許取得へ着実に

18歳のリアル

④ 大学生

陸上競技を続けながら進学した地元の公立高校から、教壇に立つ「アスリート先生」を目指す、八がいなかったものの、休日を返上して独学で技術を磨き、東北大会に出場するまでになった。

大学には特待生として入学。高め合える仲間や指導者との出会いが、レベルアップにつながった。ずっと超えられなかった高校2年の自己ベストを更新したのは、昨年10月の高校生も出場する大会だった。

挑んだのはベストを3秒上回る15.8秒。積み重ねてきた練習を信じ、

助走を開始した。何よりも高校生と競ったのが発奮材料になった。「自分の方が年上だし、先生が生徒に負けられない」夢を力に変えた渾身のジャンプ。着地と同時に体を翻し、マットから見上げた光景は忘れられない。いつもは無情に落ちるバーが、きれいに残っていた。「何が起きたのかすぐに理解できなかった。うれしさが後から込み上げてきた」。努力と苦悩を重ねた分だけ、喜びは大きかった。

慣れ親しむ陸上とは勝手が違い、日々の生活は初めての挑戦の連続だった。親元を離れての1人暮らし。料理や掃除、洗濯も自分でやらなければならぬ。大変な思いをたくさんしたが、全てが成長の糧。ほとんど作っ

陸上競技と勉学に奮闘



部活動の仲間と談笑しながら準備運動する新田凜さん
＝4月下旬、八戸市

第5部 1年後

たことがなかった料理でユニケーション能力を磨く実践的な場だ。

「大学生活には結構満足している。困ったこと競技と同様に勉学も順調だ。「日本国憲法とか難しいけど、単位は学落とさなかった」。高校の授業よりも専門的な講義に戸惑いながらも、体育の教員免許取得に向けて着実に進む。

将来を見据え、アルバイトも始めた。昨年7月から市内のフィットネスクラブで小学生に泳ぎ方を教えている。どんな言葉で伝えれば、分かってくれるか。子どもたちの触れ合いは、コミ

ユニケーション能力を磨く実践的な場だ。

「大学生活には結構満足している。困ったこと競技と同様に勉学も順調だ。「日本国憲法とか難しいけど、単位は学落とさなかった」。高校の授業よりも専門的な講義に戸惑いながらも、体育の教員免許取得に向けて着実に進む。

将来を見据え、アルバイトも始めた。昨年7月から市内のフィットネスクラブで小学生に泳ぎ方を教えている。どんな言葉で伝えれば、分かってくれるか。子どもたちの触れ合いは、コミ

(問) 18歳は大人？子ども？

この一年で大人だなという思いが強くなった。最近、スマートフォンを自分名義で契約した。これまでは親名義で何も考えずに使ってきたが、自分で手続きをして、大人になったと実感した。

を一つ一つ飛び越えていくつもりだ。
(連載終わり。金澤一能、藤村大地が担当しました)